



(仮称)さつき学園

人がつながる時がつながる
“つながる”学校づくり

ワークショップニュース

2

26年1月

守口市教育委員会では、小・中学校のより良い教育環境づくりを進めるため、学校規模の適正化や適正配置を進めており、滝井小学校、春日小学校と第三中学校についても、小中一貫校「(仮称)さつき学園」(平成28年4月開校予定)の整備計画づくりを進めているところです。

地域とつながり、これからのまちづくりの核となる、より良い学校づくりに向け、平成25年10月11日から地域・保護者・学校の方々と共に新しい学校のありかたを考えるワークショップを開催しています。



第2回全体会以降に開催したワークショップはこんな内容でした!

第2回 全体会 (11/20)



第2回の全体会では、教育委員会と設計者よりこれまで検討した内容を整理した計画案の説明がありました。その後、その計画案について意見交換をしました。

第2回 校舎・施設部会 (11/28)



第2回の校舎・施設部会では整備の方向性について検討を進めました。この日は吹き抜けとエントランス広場のあり方、教室配置について検討しました。

第2回 まち部会 (11/28)



第2回のまち部会では、全体会で課題となったグラウンドの使い方について検討しました。その後、地域と学校の連携の進め方について話をしました。

第3回 校舎・施設部会 (12/5)



第3回の校舎・施設部会では、前回積み残した普通教室や音楽室などの特別教室、グラウンド、プール等の方向性について検討しました。

小中一貫に向けて、地域とつながる学校づくりに向けての課題は?



これまでのワークショップで、いろいろな夢を語りましたが、いろいろな課題も見えてきました。

- 静かに安心して学べる環境をつくれるか?
- もっと地域が関わって、新しい学校と連携しながら、子育て環境を充実していけるか?
- 3校が一体となり、新しい学校をうまく使いこなせるか?
- 滝井と春日の市民と学校の調整はどうやっていけばいいか?
- 通学する子どもが増えたらどうするか?
- あおぞら菜園でできた作物をどう活用するか? など
- 学校の部活・小学校の遊び・地域の校庭利用の調整はできるのか?

第2回以降は、夢の実現に向けて、これらの課題への対応も考えながら、どうすればよいかを考えました。

気になる結果は次ページから!

こんな（仮称）さつき学園にしよう！

全体会・各部会で検討した内容です！

※計画案は12/5のワークショップで示されたものです。

1階 地域が子どもを見守る、人の交流拠点

- 小アリーナ・大アリーナ多目的室を一体的に使うことで多様性が増す。
- 多目的室は展示や武道場としても使えるようにする。

- 搬入車の対応も検討する。

- 駐輪場が足りない。

- 地域が利用できるところがまとまっているのは良い。
- ただし侵入者に注意。

- 子どもたちが遊んだり発表できる広場にする。
- 落下物の危険に配慮する。
- 動線を整理する。小中は一緒にするのが良い。

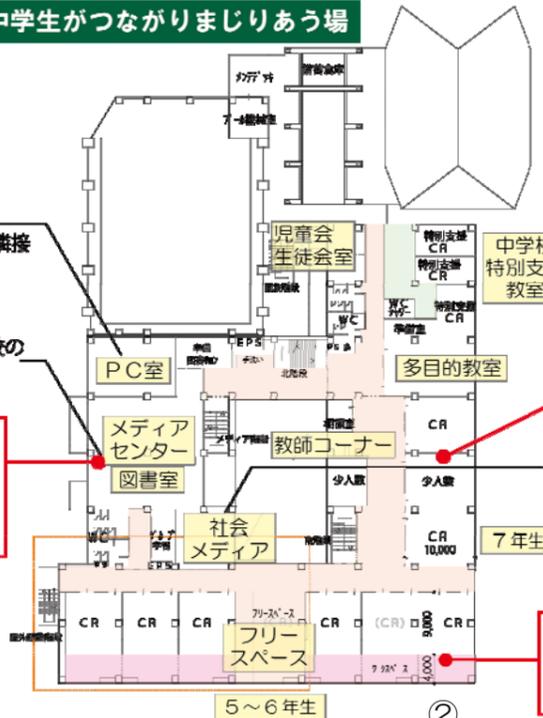
- 上の階にもカウンセリング室があると良い。

- 既存樹木が残るのはいいが、できるだけグラウンドは広く使いたい。
- ピオトープは管理が大変で、先生が変わると維持も難しい。

- 都会の中の学校なので緑が必要。子どもにどういふ活動をさせるか、それが管理よりも大事。

3階 小学生と中学生がつながりまじりあう場

- 2Fメディアセンターと一体感があると良い。
- 音に注意。



- 予備の教室が多く、少人数教室等、多様に使える。
- 教室が今より広いのは良い。

メディアセンターに近く、地理や歴史の資料を中心にディスプレイする。

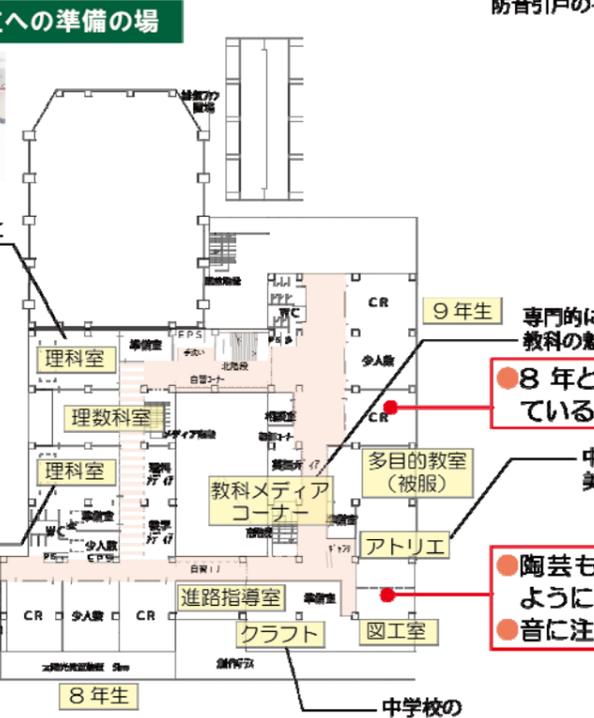
- ワークスペースが2Fと同じ形なのは使いやすい。

4階 自立への準備の場



化学、生物系の実験に対応した理科室。

物理、地学系の授業、講義形式の授業に対応した理科室。



- 8年と9年が離れているのは良い。

- 陶芸もできるようにする。
- 音に注意。

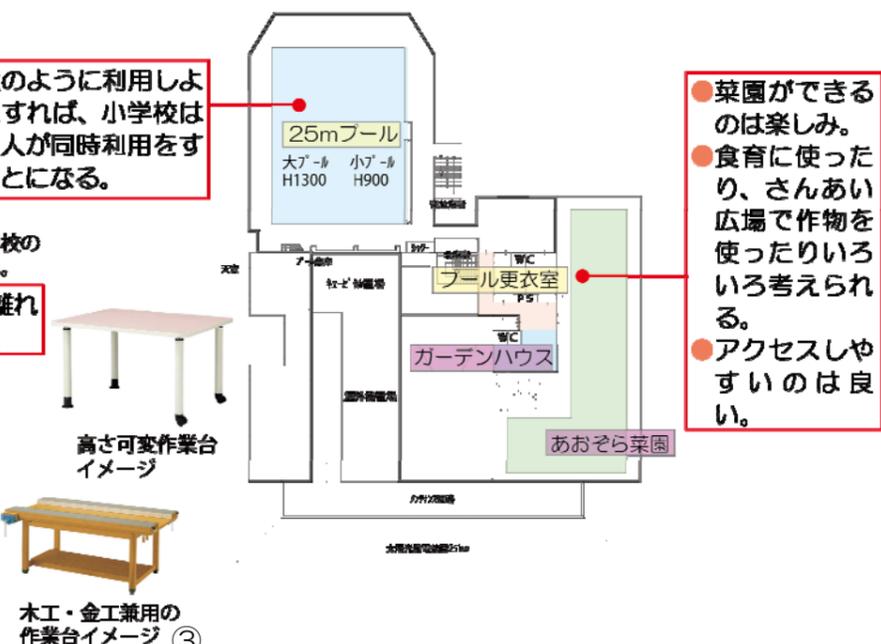
- 現状のように利用しようとするれば、小学校は80人が同時利用をすることになる。

専門的になった中学校の教科の魅力伝える。

中学校の美術を想定。

中学校の技術教室を想定。

5階 地域交流と食育の拠点



- 菜園ができるのは楽しみ。
- 食育に使ったり、さんあい広場で作物を使ったりいろいろ考えられる。
- アクセスしやすいのは良い。

木工・金工兼用の作業台イメージ



防音引戸のイメージ

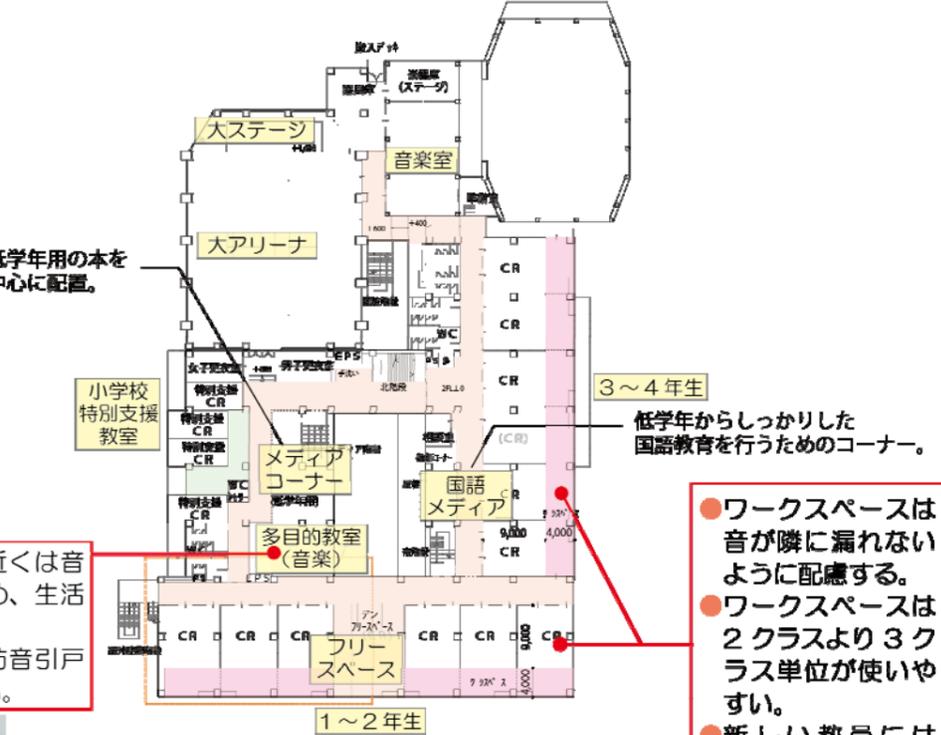
- 全面利用もできる形は良い。
- 小中の使い分けができ、一緒に運動会等の練習もできるようにする。
- 部活と小学校の放課後利用、地域の利用ができるだけ共存できるようにする。
- 今までの利用をすべてこのグラウンドでこなすことはできない。今後調整が必要。

- 特別支援教室の近くは音の出る教室はやめ、生活科にする。
- 多目的室が全部防音引戸なのは使いやすい。

調理室は全学年対応の高さ調整の可能な机を配置する。ランチルームと一体的利用も可能。



2階 小さい子どもたちの「うち」



- ワークスペースは音が隣に漏れないように配慮する。
- ワークスペースは2クラスより3クラス単位が使いやすい。
- 新しい教員にはワークスペースの利用を前提で考えてもらおうと良いのでは。

低学年用の本を中心に配置。

低学年からしっかりした国語教育を行うためのコーナー。

つな がる 学 校 づ く り を 進 め よ う

もっと学校を活用しよう

- ★スポーツや文化を通じて、もっと地域と学校がつながろう。(通学路にギャラリーをつくるなど)
- ★ゲストティーチャーとして地域の人が指導に参加しよう。
- ★エントランス広場を使って、ランチコンサートなどをしよう。



- ★世代間の交流を進めよう。さんあいを世代間交流の場としてはどうか？
- ★菜園を炊き出しやさまざまな体験の場にしよう。作った作物を地域の人に買ってもらったり、小中学生レストランをしたら、自然学習、食育だけでなく、職業体験にもなる。



調整していこう

- ★春日にも滝井にもさまざまな組織があり、校庭利用を調整する仕組みもある。春日と滝井が一緒になるので、開校までに学校も含めて調整していかないといけない。

- ★今ある既存の活動を、上手に学校づくりに生かしていこう。
- ★小中校区别ではなく、さつき学園で1つになることも考えてはどうか。



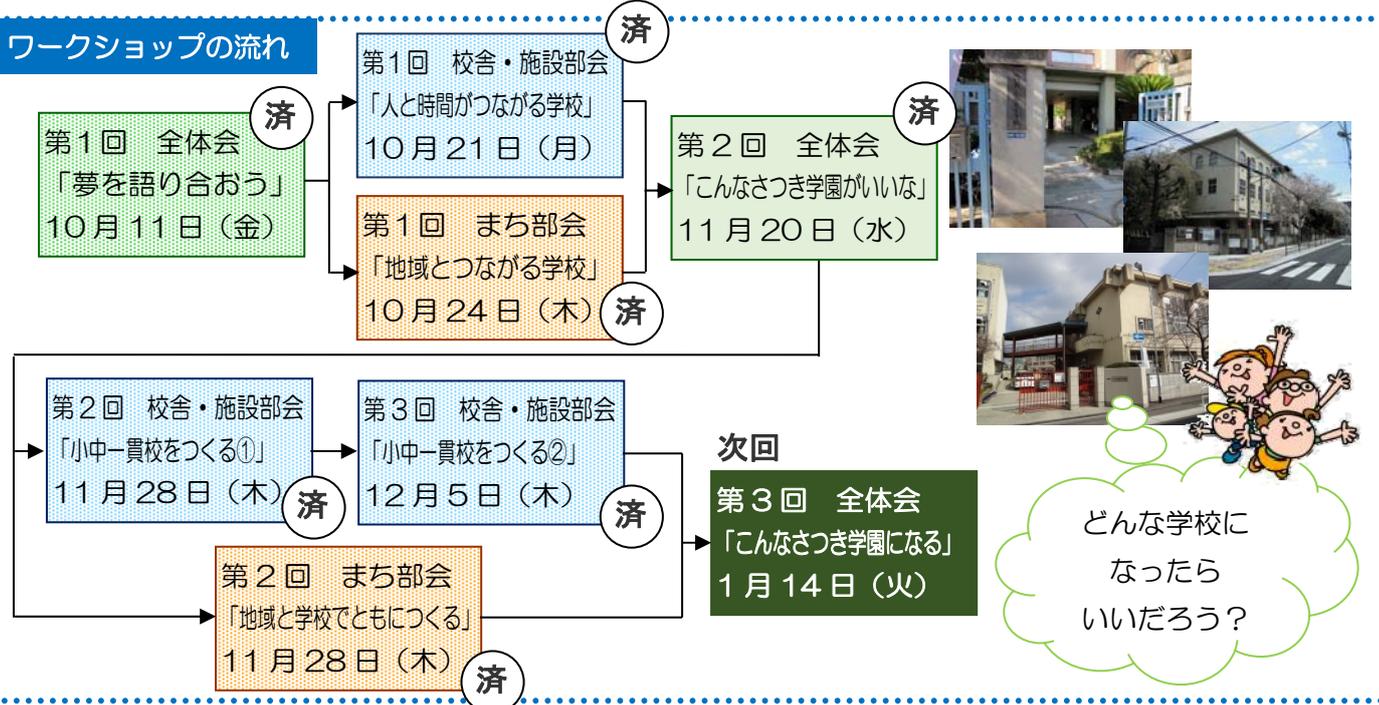
運営する体制づくりをしよう

- ★学校を地域に返し、子どもはそれを学ぶことで地域に望まれる子どもを育てる。保護者が行かせたいと思う学校づくりを進める。
- ★どういう組織作りにするか、開校までによく検討する。学校も地域も人を出して1つになり、互いに学ぶ。交流する。
- ★地域連携でピオトープも運営できるのでは。たとえば、虫イベントも可能になる。

- ★保護者が参加する仕組みを仕掛ける。子どもがたくさん来れば親も参加する。大人がたくさん来ていけば安全な学校になる。
- ★メニューはいろいろできるようにしておけば、PTAも何かには参加できるのでは。
- ★隠れた人材を発掘する。
- ★地域も学校にかかわることで絆が強くなる。
- ★学校づくりをまちづくりに波及させる。

ワークショップは、より検討を深めるため、教室などのデザイン等について検討する「**校舎・施設部会**」と地域と学校との連携について検討する「**まち部会**」に分かれて検討し、「**全体会**」で内容を共有していきます。

ワークショップの流れ



【問い合わせ】 守口市教育委員会事務局 学校規模適正化 PT (担当 西村)